

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年では観点別正答率において、2観点ともに目標値を上回った。領域別正答率では特に「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の分野で目標値を大きく上回っている。
- ・第2学年では観点別正答率において、2観点ともに目標値を上回った。領域別正答率では特に「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の分野で目標値を大きく上回っている。
- ・第3学年では観点別正答率において、2観点ともに目標値を上回った。領域別正答率では特に「話すこと・聞くこと」の分野で目標値を大きく上回っている。

(2) 課題

- ・第1学年では領域別正答率において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の分野で目標値を下回った。言葉が持つ意味や働き、そしてそれらを適切に使うための知識や技能をつけることが求められる。
- ・第2学年では領域別正答率および内容別正答率において、目標値を下回る分野はなかったが、内容別正答率の中でも「漢字を書く」は目標値をわずか0.3ポイント上回ったにすぎないので、教育漢字を正確に書く力をつけることが求められる。
- ・第3学年では領域別正答率において、目標値を下回る分野はなかったが、内容別正答率において「漢字を書く」が目標値を0.1ポイント下回った。漢字学習の習慣化、正確に書く力が求められる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年			
第2学年	教科の正答率は全国及び区の平均を上回っている。特に「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」において高い正答率であった。	校内正答率は全国及び区の平均を上回った。特に「我が国の言語文化に関する事項」において高い正答率であった。	
第3学年	教科の正答率は全国及び区の平均を上回っている。特に「話すこと・聞くこと」において高い正答率であった。	教科の正答率として全体的に目標値を上回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」において高い正答率であった。	教科の正答率として全体的に目標値を上回っている。特に「書くこと」の領域において高い正答率であった。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回った。「文法・語句」に関しては目標値を下	目標値を大きく上回った。特に「説明的な文章の内容を読	

回っており、課題が見られる。	み取る」では、内容を正確に読み取ることができた。	
----------------	--------------------------	--

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。特に「情報と情報の関係」の理解が高かった。ただし、「漢字の読み」で3ポイント差、「漢字の書き」で0.3ポイント差にとどまっている。	目標値を大きく上回っている。特に「文章を書く」に関する問題では、伝えたいことを明確にして書くことができた。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。特に「漢字の読み」に関する問題では目標値を大きく上回っている一方で、「漢字の書き」については正確性に欠ける結果となった。	目標値を上回っている。特に「発表の内容を聞き取る」に関する問題では、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができた。	

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法・語句に関して、ドリルパーク等を使って反復練習をさせ、定着を図る。また、定期的に辞書を使って語句を調べる活動を通して、初めての語句と出会うことに対しての抵抗をなくしていく。	「書くこと」では、「相手に伝わりやすい文を書く」ということを意識づける。まず、自分の立場や根拠を端的に述べる言い方を覚えさせる。次に具体的に書く練習、情報を整理して明確に書く練習を行い、生徒同士で添削し合う機会を設ける。	生徒が学習の目的を自覚し、自らの考えを深めて表現・振り返りができるよう、見通しや振り返りの場を設ける。また、意見共有では、タブレットの匿名性を利用して、自分の意見を主張しやすくするなどして学習への主体的な関わりを促す。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の小テストを継続して行い、日常的な漢字練習の場面を設ける。また、文法・語句に関する事項についても、	「読むこと」では、説明的文章を読むにあたって、必要な情報に着目して内容を解釈できるよう、キーワード等へ	単元ごとに各自でルーブリック評価を行い、単元を通してどのような力がついたのかを自分で把握できるよう

<p>小テストを行うなどして基礎的な文法事項の定着を図る。</p>	<p>の線引きを促しながら読み進める。「書くこと」では、読み取った内容を理解して書けるよう、キーワードの抜き出し、要約、添削等、順を追った課題を通して指導する。</p>	<p>にする。また、適切な場面でICT機器を活用し、授業理解の一助とする。</p>
-----------------------------------	--	---

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>漢字の小テストを定期的に行うなどして、引き続き基礎的な知識の定着を図る。また、語句を調べる活動を取り入れ、より豊富な語彙の定着を目指す。</p>	<p>「読むこと」では、文学的文章を読むにあたって、人物の心情描写に関する表現を正確に読み取らせるよう、キーワードへの着目を促しながら読み進める。「書くこと」では、読み取った内容を正確に書けるように、文章の内容を捉えて自分の意見をまとめたものを添削して個別に指導する。</p>	<p>単元の最後に振り返りを行い、単元を通して身につけた力を考えることで、授業のねらいをしっかりとらえさせる。また、ICT機器を効果的に用いることで、より深い授業理解につなげていく。</p>